

《研究ノート》

大航海時代におけるイギリス人船員の食生活

——クローヴ号（1613年）の事例を通して——

伊 東 秀 征

一 はじめに

イギリス東インド会社の第八回東洋航海船隊司令官を務めたジョン・セーリスが執筆した航海日記——以下、『セーリス日本渡航記』と呼ぶ——は、初期の日英関係を研究する上で不可欠の史料であるのみならず、大航海時代におけるイギリス人船員の食生活を研究する上でも極めて貴重な史料といえる¹⁾。実際、『セーリス日本渡航記』には、1613年1月14日にバンタムを出発してから同年6月12日に平戸へ到着するまでのクローヴ号船員の毎日の食事内容が記録されており、非常に興味深い²⁾。

従って、本稿では、大航海時代におけるイギリス人船員の食生活の一端を明らかにするために、初めに、『セーリス日本渡航記』の中から「割当として……」と書かれた箇所を訳出した上で、次に、それを中心として分析に努めてみた。

二 史料の訳出

1. 14	サック酒とビスケット、二食は牛肉。
1. 15	サック酒とビスケット、二食は小麦と蜂蜜、さらには、岩礁から船を離れさせた労力の報酬として各人に一バイントの葡萄酒。
1. 16	サック酒とビスケット、二食は……。なお、本日、彼らは熱心にポンプで水を汲み出したので、あらゆる物の割当を二倍にした。
1. 17	サック酒とビスケット、朝食は二倍の割当、二食は牛肉。
1. 18	サック酒とビスケット、二食は小麦と蜂蜜。

1. 19	サック酒とビスケット, 二食は牛肉.
1. 20	サック酒とビスケット, 二食は小麦と蜂蜜.
1. 21	サック酒とビスケット, 二食は牛肉.
1. 22	サック酒とビスケット, 二食は小麦と蜂蜜.
1. 23	サック酒とビスケット, 二食は牛肉.
1. 24	サック酒とビスケット, 二食は牛肉.
1. 25	サック酒とビスケット, 二食は小麦と蜂蜜.
1. 26	サック酒とビスケット, 二食は牛肉.
1. 27	サック酒とビスケット, 二食は小麦と蜂蜜.
1. 28	サック酒とビスケット, 二食は牛肉.
1. 29	サック酒とビスケット, 二食は小麦と蜂蜜.
1. 30	サック酒とビスケット, 二食は牛肉.
1. 31	ビールとビスケット, 二食は牛肉.
2. 1	サック酒とビスケット, 二食は小麦と蜂蜜.
2. 2	サック酒とビスケット, 二食は牛肉.
2. 3	サック酒とビスケット, 二食は小麦と蜂蜜.
2. 4	サック酒とビスケット, 二食は牛肉.
2. 5	サック酒とビスケット, 二食は米と蜂蜜, 一回分一クォート.
2. 6	サック酒とビスケット, 二食は牛肉.
2. 7	サック酒とビスケット, 二食は豚肉.
2. 8	ラック酒とビスケット, 一食は豚肉, 一食はオートミールと蜂蜜.
2. 9	ラック酒とビスケット, 一食は豚肉, 一食はオートミールと蜂蜜.
2. 10	ラック酒とビスケット, 一食は豚肉, 一食はオートミールと蜂蜜.
2. 11	ラック酒とビスケット, 一食は豚肉, 一食はオートミールと蜂蜜.
2. 12	ラック酒とビスケット, 二食は米と蜂蜜.
2. 13	ラック酒とビスケット, 一食は豚肉, 一食はオートミールと蜂蜜.
2. 14	ラック酒とビスケット, 二食は牛肉.
2. 15	ラック酒とビスケット, 一食は牛肉, 一食は小麦と蜂蜜.
2. 16	サック酒とビスケットの朝食, 一食は牛肉, 一食はオートミール, 蜂蜜,

	ラック酒の夕食.
2. 17	サック酒とビスケット, 一食は牛肉, 一食はオートミールと蜂蜜.
2. 18	サック酒とビスケット, 一食は牛肉, 一食はオートミールと蜂蜜.
2. 19	サック酒とビスケット, 二食は米と蜂蜜.
2. 20	サック酒とビスケット, 一食は牛肉, 一食はオートミールと蜂蜜.
2. 21	サック酒とビスケット, 二食は牛肉と小麦.
2. 22	サック酒とビスケット, 一食は牛肉, 一食は蜂蜜と小麦.
2. 23	ラック酒とビスケット, 一食は牛肉, 一食は小麦と蜂蜜.
2. 24	ラック酒とビスケット, 一食は牛肉, 一食は小麦と蜂蜜.
2. 25	ラック酒とビスケット, 一食は牛肉, 一食は小麦と蜂蜜.
2. 26	ラック酒とビスケット, 二食は米と蜂蜜.
2. 27	ラック酒とビスケット, 一食は牛肉, 一食は小麦と蜂蜜.
2. 28	ラック酒とビスケット, 二食は牛肉と団子用粗粉.
3. 1	ラック酒とビスケット, 一食は牛肉, 一食はオートミールと蜂蜜.
3. 2	ラック酒とビスケット, 一食は牛肉と団子, 一食はオールミールと蜂蜜.
3. 3	サック酒とビスケット, 一食は牛肉, 一食はオートミールと蜂蜜.
3. 4	サック酒とビスケット, 一食は牛肉, 一(食)はオートミールと蜂蜜.
3. 5	サック酒とビスケット, 二食は米と蜂蜜.
3. 6	サック酒とビスケット, 一食はオートミール, 一食は牛肉.
3. 7	サック酒とビスケット, 二食は牛肉と団子用粗粉.
3. 8	サック酒とビスケット, (一)食は小麦と蜂蜜, 一(食)は牛肉.
3. 9	サック酒とビスケット, (一食は)牛肉と粗粉, 一食は小麦と蜂蜜.
3. 10	サック酒とビスケット, 一食は牛肉, 一食は小麦と蜂蜜.
3. 11	サック酒とビスケット, 一食は牛肉と粗粉, 一食は小麦と蜂蜜.
3. 12	サック酒とビスケット, 二食は米と蜂蜜.
3. 13	サック酒とビスケット, 一食は牛肉, 一食は小麦と蜂蜜.
3. 14	ビスケット, 二食は牛肉と団子用粗粉.
3. 15	サック酒とビスケット, 一食は牛肉, 一食はオートミールと蜂蜜.
3. 16	サック酒とビスケット, 一食は牛肉と団子, 一食はオートミールと蜂蜜.

3. 17	サック酒とビスケット, 一食は牛肉と団子, 一食はオートミールと蜂蜜.
3. 18	サック酒とビスケット, 一食は牛肉と団子, 一食はオートミールと蜂蜜.
3. 19	サック酒とビスケット, 二食は米と蜂蜜.
3. 20	ラック酒とビスケット, 一食は牛肉, 一食はオートミールと蜂蜜.
3. 21	ビスケットの朝食, 一食は牛肉と団子, 一食は牛肉.
3. 22	ラック酒とビスケット, 一食は牛肉, 一食は小麦と蜂蜜.
3. 23	ビスケットとラック酒, 一食は牛肉と団子, 一食は小麦と蜂蜜.
3. 24	ビスケットとラック酒, 一食は牛肉, 一食は小麦と蜂蜜.
3. 25	ビスケットとラック酒, 一食は牛肉と団子, 一食は小麦と蜂蜜.
3. 26	ビスケットとラック酒, 二食は米と蜂蜜.
3. 27	ビスケットとラック酒, (一食は)牛肉, 一食は小麦と蜂蜜.
3. 28	ビスケット, 一食は牛肉と団子, 一食は牛肉.
3. 29	ビスケットとラック酒, 一食は牛肉, 一(食)はオートミール.
3. 30	ビスケットとラック酒, 一食は牛肉と団子, 一(食)はオートミール.
3. 31	ビスケットとラック酒, 一食は牛肉, 一食はオートミール.
4. 1	ビスケットとラック酒, 一食は牛肉と団子, 一食はオートミール.
4. 2	ビスケットとラック酒, 二食は米と蜂蜜.
4. 3	ビスケットとラック酒, 一食は牛肉, 一食はオートミール.
4. 4	ビスケットの朝食, 一食は牛肉と団子, 一食は牛肉, 昼食と夕食はサック酒添え.
4. 5	ビスケットとラック酒, 一食は牛肉, 一食は小麦と蜂蜜.
4. 6	ビスケットとラック酒, 一食は牛肉と団子, 一食は小麦.
4. 7	ビスケットとラック酒, 一食は牛肉, 一食は小麦.
4. 8	ビスケットとラック酒, 一食は牛肉と団子, 一食は小麦.
4. 9	ビスケットとラック酒, 二食は米と蜂蜜.
4. 10	ビスケットとラック酒, 一食は牛肉, 一食は小麦.
4. 11	ビスケットの朝食, 一食は牛肉と団子, 一食は豚肉.
4. 12	ビスケットとラック酒, 一食は新鮮な豚肉, 一食は塩漬の豚肉.
4. 13	ビスケットとラック酒, 一食は牛肉, 一食は牛肉と粗粉, 一食はオートミ

	ール。
4. 14	ビスケットとラック酒、一食は豚肉、一食はオートミール。
4. 15	ビスケットとラック酒、一食は牛肉と団子、一食はオートミール。
4. 16	ビスケットとラック酒、二食は米と蜂蜜。
4. 17	ビスケットとラック酒、一食は豚肉、一食はオートミール。
4. 18	ビスケットとサック酒、一食は牛肉と小麦、一食は豚肉と小麦、両食とも葡萄酒添え。
4. 19	ビスケットとラック酒、一食は豚肉、一食は小麦と蜂蜜。
4. 20	ビスケットとラック酒、一食は牛肉、一食は小麦と蜂蜜。
4. 21	ビスケットとラック酒、一食は豚肉、一食は小麦と蜂蜜。
4. 22	ビスケットとラック酒、一食は牛肉、一食は小麦と蜂蜜。
4. 23	ビスケットとラック酒、二食は米と蜂蜜。
4. 24	ビスケットとサック酒、一食は牛肉、一食は小麦。
4. 25	ビスケットの朝食、二食は牛肉と小麦。
4. 26	サック酒とビスケット、一食は牛肉、一食はオートミール。
4. 27	サック酒とビスケット、一食は牛肉、一食はオートミール。
4. 28	サック酒とビスケット、一食は牛肉、一食はオートミール。
4. 29	サック酒とビスケット、一食は牛肉、一食はオートミールと蜂蜜。
4. 30	サック酒とビスケット、二食は米と蜂蜜。
5. 1	サック酒とビスケット、一食は牛肉、一食はオートミールと蜂蜜。
5. 2	ビスケットの朝食、二食は牛肉。
5. 3	サック酒とビスケット、一食は牛肉、一食は小麦。
5. 4	サック酒とビスケット、一食は牛肉、一食は小麦。
5. 5	サック酒とビスケット、一食は牛肉、一食は小麦。
5. 6	サック酒とビスケット、一食は牛肉、一食は小麦。
5. 7	サック酒とビスケット、二食は米とココナッツ。
5. 8	ビスケットとサック酒、一食は牛肉、一食は小麦。
5. 9	ビスケットの朝食、二食は牛肉。
5. 10	サック酒とビスケット、一食は牛肉、一食はオートミールと蜂蜜。

5. 11	サック酒とビスケット, 一食は一回分二クォートの小麦, 一食はオートミールと蜂蜜.
5. 12	サック酒とビスケット, 一食は牛肉, 一食はオートミールと蜂蜜.
5. 13	サック酒とビスケット, 一食は一回分二クォートの小麦, 一食はオートミールと蜂蜜.
5. 14	サック酒とビスケット, 二食は米と蜂蜜.
5. 15	サック酒とビスケット, 一食は牛肉, 一食はオートミールと蜂蜜.
5. 16	サック酒とビスケット, 一食は牛肉と小麦, 一食は小麦.
5. 17	ラック酒とビスケット, 一食は牛肉, 一食は小麦と一回分四分の一パイントの油.
5. 18	ラック酒とビスケット, 一食は牛肉, 一食は小麦と油.
5. 19	ラック酒とビスケット, 一食は牛肉, 一食は小麦と油.
5. 20	ラック酒とビスケット, 一食は牛肉, 一食は小麦と油.
5. 21	ビスケットとラック酒, 二食は米と油.
5. 22	ラック酒とビスケット, 一食は牛肉, 一食は小麦と油.
5. 23	ラック酒とビスケット, 一食は牛肉と小麦, 一食は豚肉と小麦.
5. 24	ラック酒とビスケット, 一食は牛肉, 一食はオートミールと油.
5. 25	ラック酒とビスケット, 一食は豚肉と小麦, 一食はオートミールと油.
5. 26	ラック酒とビスケット, 一食は牛肉, 一食はオートミールと油.
5. 27	ラック酒とビスケット, 一食は豚肉と小麦, 一食はオートミールと油.
5. 28	ラック酒とビスケット, 二食は米と油.
5. 29	ラック酒とビスケット, 一食は牛肉, 一食はオートミールと油.
5. 30	ラック酒とビスケット, 一食は豚肉と小麦, 一食は牛肉.
5. 31	ラック酒とビスケット, 一食は牛肉, 一食は小麦と油.
6. 1	ラック酒とビスケット, 一食は豚肉と小麦, 一食は小麦と油.
6. 2	ラック酒とビスケット, 一食は牛肉, 一食は小麦と油.
6. 3	ビスケットと私のラック酒, 一食は豚肉と小麦, 一食は小麦と油.
6. 4	ビスケットとラック酒, 二食は米と油.
6. 5	ラック酒とビスケット, 一食は牛肉, 一食は米と油.

6. 6	ラック酒とビスケット，一食は豚肉と小麦，一食は牛肉.
6. 7	ラック酒とビスケット，一食は豚肉と小麦，一食はオートミールと油.
6. 8	ラック酒とビスケット，一食は牛肉，一食はオートミール，両食ともラック酒添え.
6. 9	ラック酒とビスケット，一食は豚肉と小麦，一食はオートミール，油，サック酒の夕食.
6. 10	サック酒とビスケット，一食は牛肉，一食はオートミールと油.
6. 11	サック酒とビスケット，二食は米と油.
6. 12	サック酒とビスケット，一食は豚肉と小麦，一食はオートミールと油.

三 史料の分析

ここで、クローヴ号船員の日常食について分析しておく。

1. 穀類

「割当として……」の箇所には、さまざまな穀類——具体的には、ビスケット、小麦、オートミール、米、団子、団子用粗粉——が挙げられている。

最初はビスケットであるが、1月14日から6月12日までの間、一日も欠かさず食べられており、正に当航海の基本食といえる。なお、レイ・タナヒルによれば、「船用ビスケットは……五十年もの長きにわたって食べられると考えられる程永久に堅い³⁾」ものであった。

次は小麦であるが、これも又、当航海には欠かせない重要な食品であった。史料不足によって詳しい調理法は判らないものの、おそらくパン⁴⁾や粥に調理された上、単独で、あるいは、蜂蜜、豚肉、牛肉との組み合わせで食べられていたのであった。また、油との組み合わせも数例見られることから推測して、時には炒め物などに調理されていたと考えられる。

さらにはオートミール、米であるが、これらも又、パン、粥、炒め物に調理されていた可能性が高い。

最後は団子、団子用粗粉であるが、これらはもちろん団子として食べられていた。

2. 魚類

「割当として……」の箇所には全く見当たらないものの、魚が例外的に食べられていた可能性はある。すなわち、4月23日、イギリス人一行は「大いなる苦心の末、

表1 クローヴ号船員の日常食

食品群	食 品 名
穀 類	ビスケット, 小麦, オートミール, 米, 団子, 団子用粗粉, (パン)
魚 類	(魚)
肉 類	牛肉, 豚肉, (山羊), (鶏), (雉), (森鳩), (猪)
野菜類	(棕櫚の木の結球)
果実類	(プランタン), (レーズン), (カラント), (ブルー)
種実類	ココナツ
油脂類	油, (バフエロ)
甘味類	蜂蜜, (砂糖黍)
香料類	(胡椒), (クローヴ)
酒 類	サック酒, ラック酒, 葡萄酒, ビール, (日本酒)
菓子類	(砂糖漬)

注) カッコ内の食品は、「割当として……」と書かれた箇所には見当たらないものの、実際に食べられていた可能性のあるものを示す。

岩の間で数匹の魚を捕えた⁵⁾」のであった。また、6月11、12日、平戸の前領主、松浦鎮信以下の日本人から「魚⁶⁾」を贈られている。なお、残念ながら、史料不足によって、その種類を特定することはできなかった。

3. 肉類

「割当として……」の箇所には、牛肉と豚肉が挙げられている。

最初は牛肉であるが、その使用頻度は表1の全食品中、ビスケットに次いで高く、当航海には欠かせない極めて重要な食品であった。なお、2月26日と4月9日に、セーリスが「塩を振り掛けた牛肉十片⁷⁾」をパチャン島およびチドール島の砦の司令官に贈ったと記録されていることから明らかな通り、長い航海での腐食を防ぐために塩漬加工されていたものと考えられる。問題は調理法であるが、大半は単独で煮たり焼いたりされていたものの、「不愉快な位塩辛い⁸⁾」のを緩和するために、団子や小麦を添えて同様に調理される場合もあった。

次は豚肉であるが、これも又、大半は塩漬加工されており⁹⁾、単独で、あるいは、小麦との組み合わせで調理されていた。ただし、牛肉に比べて、その使用頻度は低く、補助的な役割を果たしていたに過ぎなかった。

ところで、「割当として……」の箇所には見当たらないものの、以下の各種記述から推測して、その他の肉が食べられていた可能性も否定し切れない。すなわち、セーリスは、1月20日に「山羊二頭¹⁰⁾」、3月4日に「鶏十羽¹¹⁾」、4月9日に「鶏十羽、山羊一頭¹²⁾」、同月12日に「鶏十四羽¹³⁾」、6月11日に「これまでに見た中で最も大きく最も太った猪¹⁴⁾」をさまざまな人々から贈られている¹⁵⁾。また、イギリス人一行は、4月23日に「雉一羽、鶏と同じ位の体をした非常に大きな森鳩二羽¹⁶⁾」、同月29日に「雉二羽、森鳩二羽¹⁷⁾」を捕獲している¹⁸⁾。さらには、「モロッカ諸島においてパーサーが船内用の鶏を十八ペンスで購入した¹⁹⁾」のであった。

4. 野菜類

「割当として……」の箇所には見当たらないものの、4月25日、「彼ら（イギリス人一行）は……牛肉と一緒に煮るとキャベツと同じ位おいしい棕櫚の木の結球（葉が重なって球状になったもの）を持ち帰った²⁰⁾」と記録されていることから推測して、この結球が牛肉との組み合わせで食べられたであろうことは間違いない。

5. 果実類

果実類についても、「割当として……」の箇所には全く見当たらないものの、2月26日、「その島（バチャン島）の王と砦の司令官が私（セーリス）にプランタン（料理用バナナの実）……の贈物を贈り、……私はそのオランダ人（砦の司令官）に……私自身の食料の果実たるレーズン三ポンド、カラント（小粒のレーズン）三ポンド、ブルー三ポンドを贈った²¹⁾」と記録されていることから推測して、これらの果実が、少なくとも上級船員の間では食べられていた可能性もある。

なお、この他にも、3月22日、同月28日、4月9日、6月11日にイギリス人一行は「果実²²⁾」を贈られているが、史料不足によって、その種類を特定することはできなかった。

6. 種実類

「割当として……」の箇所には、唯一、5月7日にココナッツが挙げられているに過ぎない。とはいえ、1月20日、2月26日、3月4日、同月28日にイギリス人一行は「ココナッツ²³⁾」を贈られた、また、4月25日、「彼ら（イギリス人一行）は……大量のココナッツ……を持ち帰った²⁴⁾」と記録されていることから推測して、別の機会に食べられていた可能性も否定し切れない。

7. 油脂類

「割当として……」の箇所には油が挙げられており、小麦、米、オートミールを炒めたりする際などに使用されていた。

なお、2月1日、「ジャンク船の船長が私(セーリス)に……パフェロ(牛乳から作ったバター)一瓶……の贈物を贈った²⁵⁾」と記録されていることから推測して、パフェロも又、油の代替品として例外的に用いられた可能性もある。

8. 甘味類

「割当として……」の箇所には蜂蜜が挙げられているが、これは当航海には欠かせない極めて重要な食品であった。実際、その使用頻度はビスケット、牛肉に次いで高く、具体的には、小麦、米、オートミールを材料とする各種料理に使用されていた。

なお、3月4日、「王(バチャン島の王)が彼の神官を介して……私(セーリス)に砂糖黍の贈物を贈って来た²⁶⁾」と記録されていることから推測して、砂糖も又、蜂蜜の代替品として例外的に用いられていた可能性もある。

9. 香料類

「割当として……」の箇所には見当たらないものの、3月19日および同月29日に「胡椒²⁷⁾」と「クローヴ²⁸⁾」の遣り取りがあったと記録されていることから推測して、これらの香料が上級船員の日常食に使用されていた可能性も否定し切れない²⁹⁾。

10. 酒類

「割当として……」の箇所には、サック酒(スペイン産の白葡萄酒)、ラック酒(ココナッツの汁などを原料とする蒸留酒)、葡萄酒、ビールが挙げられているが、使用頻度から見た場合、サック酒とラック酒が圧倒的に重要であった。

なお、6月12日、最終到着地の平戸において、セーリスが鎮信以下の日本人から「その土地の酒³⁰⁾」すなわち日本酒を贈られていることも指摘しておく。

11. 菓子類

「割当として……」の箇所には見当たらないものの、6月11日、「私(セーリス)は陛下(鎮信)を、すべてガラス器に盛られたさまざまな種類の砂糖漬の宴会でもてなした³¹⁾」と記録されていることから推測して、上級船員の間では各種の砂糖漬が食べられていた可能性も否定し切れない。なお、残念ながら、史料不足によって、その種類を特定することはできなかった³²⁾。

四 おわりに

約五ヶ月間にわたる航海を通して、セーリスの他、当初「八十一名³³⁾」いたクローヴ号の乗組員は「十一名³⁴⁾」死亡したが、その一因は食生活の栄養バランスの欠如にあったと考えられる。実際、その日常食においては、使用頻度から見た場合、穀類（ビスケット、小麦）、肉類（牛肉）、甘味類（蜂蜜）、酒類（サック酒、ラック酒）が重要な位置を占めており、換言すれば、野菜類や果実類はほとんど摂取の機会が与えられていなかったのであった。

今後は、他の航海食の事例も併せて検討した上で、大航海時代におけるイギリス人船員の食生活の実態を明らかにしてゆきたい。

- 1) E. M. Satow (ed.), *The Voyage of Captain John Saris to Japan, 1613*, London, 1900.
- 2) 拙稿「クローヴ号船員の食生活」『活水論文集音楽学部・共通教養・一般教育編』第38集, 1995年も参照されたい。なお、セーリスの来日を契機に設立された平戸イギリス商館（1613～23年）の食生活に関しては、さしあたり、拙稿『『セーリス日本渡航記』から見た平戸イギリス商館員の食生活』『世界史説苑』東京法令出版, 1994年を参照されたい。
- 3) Reay Tannahill, *Food in History*, Penguin Cookery Library, 1988, p. 225 f.
- 4) 「割当として……」の箇所には見当たらないものの、実際の所、パンが食べられていた可能性は高い。すなわち、セーリスは4月8日、「糸に付けて船尾から……パンを彼ら（スペイン人）に下ろしてやった」のであった。また、5月27日、「船員に……一週間に一日、二ポンド半のパン……を与えるように司厨員に命じた」のであった。——E. M. Satow, op. cit., p. 51, 72.
- 5) Ibid., p. 65.
- 6) Ibid., pp. 81-83.
- 7) Ibid., p. 23, 52.
- 8) R. Tannahill, op. cit., p. 226.
- 9) 唯一の例外は、4月12日の「割当として……」の「一食は新鮮な豚肉」である。——E. M. Satow, op. cit., p. 56.

- 10) Ibid., p. 5.
- 11) Ibid., p. 26.
- 12) Ibid., p. 52.
- 13) Ibid., p. 55.
- 14) Ibid., p. 81.
- 15) この他, 6月11日の条に「主だった各人が贈物を持参した. ある者は獣肉, ある者は野鳥……である」と記録されているが, その種類を特定することはできなかった. —Ibid., p. 81.
- 16) Ibid., p. 65.
- 17) Ibid., p. 68.
- 18) この他, 4月25日の条に「彼ら(イギリス人一行)は鳥……を持ち帰った」と記録されているが, その種類を特定することはできなかった. —Ibid., p. 66.
- 19) Ibid., p. 76.
- 20) Ibid., p. 66.
- 21) Ibid., p. 23 f.
- 22) Ibid., p. 38, 43, 52, 81.
- 23) Ibid., p. 5, 23, 26, 43.
- 24) Ibid., p. 66.
- 25) Ibid., p. 12.
- 26) Ibid., p. 26.
- 27) Ibid., p. 35.
- 28) Ibid., p. 43.
- 29) 中近世における西欧人の香料に対する需要に関しては, 例えば, 拙著『近世イギリス東方進出史の研究』葦書房, 1992年を参照されたい.
- 30) E. M. Satow, op. cit., p. 83.
- 31) Ibid., p. 80.
- 32) なお, 平戸イギリス商館長リチャード・コックスが執筆した公務日記——いわゆる『コックス日記』のこと——には, 無花果, オレンジ, オレンジの花, カラシ, シトロン, ジンジャー, 梨, ナツメグ, バラ, マルメロ, 桃, レモンなどの砂糖漬が記録されている. —The Historiographical Institute, the Uni-

versity of Tokyo (ed.), *Diary Kept by the Head of the English Factory in Japan*, 3 vols, Tokyo, 1978-80.

33) E. M. Satow, op. cit., p. 1.

34) Ibid., p. 85.

(活水女子大学助教授)